

IV-27

インターネットによる北上川銀河博物館構想に関する意向調査

岩手大学 正員 安藤 昭  
 岩手大学大学院 学生員 大泉 剛  
 岩手大学 正員 佐々木榮洋  
 岩手大学 学生員 ○鈴木隆久

1. 研究の背景と目的

今日、全国各地において地域づくりの手法が模索されているが、そのなかでもエコミュージアムと呼ばれる新しい形態を持つ博物館が、近年注目されている。

エコミュージアムは地域住民と行政が中心となって計画を推し進める方式が原則であるが、そのため計画に外部からの意見を十分に反映できていない事例もある。

そこで本研究は、来訪者の視点から北上川すべてを対象領域とするエコミュージアム、北上川銀河博物館の課題を明らかにすることを目的として、インターネットを用いた意向調査を実施し、同時にインターネットによる調査の課題を抽出することを目的とする。

2. 研究の方法

1) 調査内容

調査項目は、「エコミュージアムについて」、「北上川流域圏を対象とする博物館の構想について」、「北上川流域圏への来訪について」、の3つの視点から20問用意した。その中から12問についての質問内容を表-1に示す。

表-1 質問の内容

|                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| エコミュージアムについて           | エコミュージアムの認知度    |
|                        | エコミュージアムの関心     |
|                        | エコミュージアムに期待する点  |
|                        | 運営参加への意思        |
| 北上川流域圏を対象とする博物館の構想について | 河川を基調としている点への関心 |
|                        | 構想への期待度         |
|                        | 来訪の意思           |
|                        | 来訪の目的           |
| 北上川流域圏への来訪について         | 北上川への来訪経験       |
|                        | 人との交流について       |
|                        | 宿泊施設について        |
|                        | 交通手段について        |

1) 調査方法

調査は、双方向性および利用者数の多さに着目し、インターネットを用いてアンケートを実施した。

現在インターネットのユーザー数は、プロバイダと契約しているだけでも97年6月現在で、709万人に達し、コンピューターを開放しているような公的機関で利用できる人々も含めれば、イ

ンターネット利用者は膨大な人数にのぼると思われる。

インターネットを利用して行うアンケートの利点としては時間的、空間的な制約を受けないということが挙げられる。主要な考え得る問題点としては、ユーザーでなければアンケートの存在に関する認知さえも非常に困難なものとなることや、サンプリング上での問題などが挙げられる。

3) 調査実施概要

1998年1月23日のホームページ開設をもって調査開始とした。その結果2月3日までに61の回答が得られた。

ホームページの内容はエコミュージアムに関する説明、北上川流域圏を対象とする博物館に関する説明、およびアンケートの3項目から構成した。  
 i) 北上川流域圏を対象とするエコミュージアムについて

エコミュージアムとは、自然および文化遺産を現地において保存、育成、展示するとともに、地域社会の発展の道を研究することを通して地域社会の進展に寄与することを目的に、博物館として組織化した広大な野外博物館である。

北上川流域圏を対象とするエコミュージアムは、北上川源流部から河口部まで、上流域、中流域、下流域の北上川流域圏すべてを対象としている。主な構成要素として、地域遺産が現地保存されている場所である「サテライト」(衛星館)、情報発信・交流機能を備えたエコミュージアムの中心館である「コアミュージアム」(中核博物館)、コアミュージアムの別館機能を持つ「アネックス」(別館)の3つがある。

ii) 回答者の属性

図-1に示すように回答者の約8割を男性が占めている。



図-1 回答者の属性 (性別)

4. 結果および考察

本稿では、調査結果の中からエコミュージアムの認知度および関心度、来訪意思、名称について、来訪目的、希望宿泊日程に関する結果および考察について記述する。

1) エコミュージアムの認知度について

エコミュージアムの認知度を把握するために、

エコミュージアムの考え方を知っていたかについて質問した。約4割が知っていると回答した(図-2)。

## 2) エコミュージアムへの関心度について

ホームページにエコミュージアムの説明ならびに北上川流域圏を対象とした博物館の構想の紹介を載せたうえで質問したためか、約7割の回答者が「関心がある」と回答した(図-3)。

## 3) 博物館の名称について

北上川流域圏を対象とした博物館の名称を決めるため、これまで候補としてあった「北上川銀河博物館」と「北上川博物館」を挙げて選択してもらった。「北上川銀河博物館」が5割以上と最も大きな支持率を得た(図-4)。

## 4) 来訪意思について

回答者に対して北上川流域圏を対象とした博物館への来訪意思を質問した。「行ってみたい」「やや行ってみたい」合わせて8割以上となっている(図-5)。

## 5) 来訪目的について

これから基本計画を進めていくにあたり、どのような点に着目するべきかを把握するために、来訪する際の主な目的を質問した。回答者の約3割が体験学習を目的に挙げていることから、北上川流域圏固有の文化を実体験できるようなエコミュージアムづくりが望まれる。また、趣味・娯楽や休養・くつろぎの支持も高く、楽しさや、やすらぎをもたらす空間の形成が求められる(図-6)。

## 6) 希望宿泊日程について

広大な領域面積を持つエコミュージアムにおいては、滞在者を受け入れる宿泊施設の設備も重要なものとなる。そこで設備目標の目安を設定するにあたり、来訪するにあたっての希望宿泊日数を質問した。その結果、「日帰り」よりも宿泊すると回答した人が大きく上回り、受け入れる側のさらなるサービスの提供、宿泊施設の充実が求められる(図-7)。

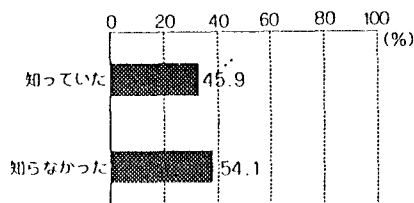


図-2 エコミュージアムの認知度

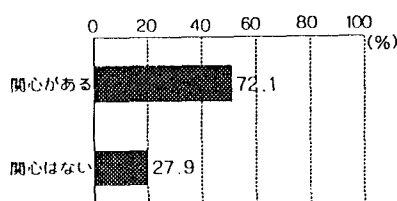


図-3 エコミュージアムへの関心度

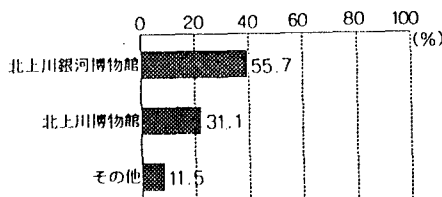


図-4 博物館の名称について

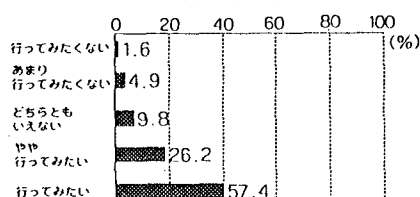


図-5 来訪意思について

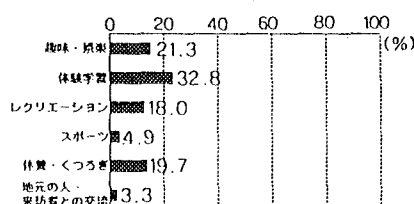


図-6 来訪目的について

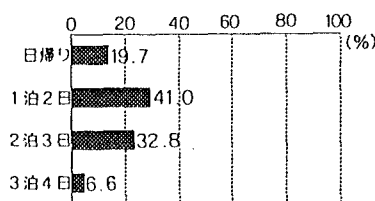


図-7 希望宿泊日程について

## 5. おわりに

本稿は、ホームページの開設から十分な期間が経っておらず、中間集計という形となった。今後はサンプル数を増やし、研究成果を確かなものにしてゆく予定である。